

海田南小学校 授業紹介 コーナー

(ここでは、海田南小学校の様々な先生達の授業の様子を随時紹介しています。)

5月 31日	第5学年1組	算数科	授業者(熊野 めぐみ 教諭)
NO.6	参観者(校長・主幹・西村・今井・津田)		記入者(校長 重森)

【1】 授業の概要

導入で地図帳を使って国あてクイズをしていました。日常的に地図を見ることができ、地図を楽しむ子供にしたいという熊野先生の考えです。そして、宇宙から見た日本の衛星写真を見せて「何色?」「どうしてだろう?」子供たちは「緑!」「自然の色?」「山?」「本当に山なのか確かめてみたい」ということで、白地図に山地・山脈・平野・河川を書き込むことになりました。しっかりと教科書を使って「山地・山脈」「平野」の意味を確認して作業がスタートしました。書き込んで分かったことを交流し、「やはり、日本の国土は山地が多い。」「特に中部地方に高い山が多い。」「海に面している平野が多い。」という気付きを出しました。学習のまとめを子供たちの言葉から板書し、先生は子供たちに振り返りを「いつものように3つの視点で」書くように言われました。いつものようにとは、「①分かったこと②参考になった友達の考え③さらに知りたいこと」です。子供たちは慣れた手つきでさくさくとノートに記述していました。

【2】 授業の素晴らしい点と学び

①本時のまとめを「子どもの言葉」で子供が語る授業

「本時のまとめを教師の言葉でまとめてしまったら、その授業は私の負けです。」熊野先生は事後の授業研究会でそう言われました。「授業の最後に、まとめを子供が語れなければ子供自身が分かったという授業ではない。そのこと自体が自分の授業の目標です。」今回も、最後のまとめを子供たちに尋ねられ、子供たちの言葉を拾いながら黒板に書かれていました。熊野先生は、授業を創るとき、常に、展開を子供の反応を予測しながら創るそうです。教師はどうしても、教えたことがたくさんありすぎて、時に子供の反応をなおざりにすることがあります。じっくりと子供の表情を見ながら分かり方を把握し、必要に応じて切り返しや補足の発問や質問を行いながら、授業を展開することが、みんなが分かる授業につながるんですね。

②子供の活動を大切に、活動を通して分かるに達する授業

導入の地図帳を活用したクイズや、本時での白地図への自力解決など、子供の作業(活動)の時間をとって、それをもとに話し合う授業でした。熊野先生は、白地図へ山脈や平野、河川を書き込むために時間を決め、視点を決めて、本当にその時間だけで活動させていました。子供たちは限られた時間なので、無言で集中してどんどん作業をしていました。その後の話し合いでは先生が「書き込みながら考えをまとめていたのですね。」と評価するように、どんどん子供たちの意見が出ていました。「見る」だけでは気がつかない点を「作業を通して」全員が何か一つは見つけることができていました。

③ICT機器を効果的に使い理解を深める授業

実物投影機を活用し、黒板に子供の書いた白地図や教科書や資料集のグラフなどを写しながら、全員で必要な情報を共有したり、気づきを出したりしながら授業が進みました。白地図に書き込む際も、戸惑っている子供たちがいることに気づいた先生は、見本となる子供の作業中の白地図を、投影し、そのよさを共有することで、安心して作業に取り組めるようにしていました。実物投影機は、子供の手元にあるものをリアルタイムで共有でき、録画でき、ズームができ、教育効果がたいへん高いと熊野先生は言われます。「今後は、子供自身が日常的にこの機械を使えるようにしていきたい。(学び方を学ぶということ)」とされていました。

限られた時間に集中して考えながら作



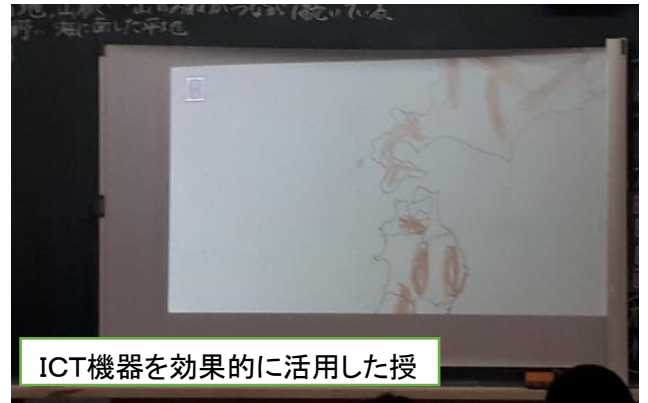
教科書を活用してしっかり調べる



ICT機器を効果的に活用した授



ICT機器を効果的に活用した授



子供の言葉を使ってまとめを板書

